



ドクター・ワッシー

診察室

# ざくばらん

# 年齢理由に

# 諦めないで

## 頭痛と老人性うつ

「頭が痛い。薬も効かない」と言われては、医者も困る。患者さんも困る。さては脳腫瘍か？などと不安になる。が、もっと身近な病気が原因ということもある。

76歳のS子さん。約1カ月前から、毎日のように頭が痛い。が、どんな鎮痛剤も効かないのだ。さらには、目まいや動悸がしたり、手足まで痺れたりするようになった。あちこちの医者に診てもらった。が、年のせいか、気のせいかな、などといわれるだけだ。あまり大事にされない。確かに、診察しても、格別の異常はない。頭の検査はまだだ。70も過ぎれば、思いがけない頭の病気が隠れていることがある。見落とすこと

は許されない。で、早速、頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査をした。だが、Sさんの脳はきれいだ。頭の中には、頭痛や目まい、痺れなどの原因になる病気はないのである。頭痛の原因がはっきりしない。

薬も効かない。動悸や痺れなどのワケの分からない症状もある。となれば、「老人性うつ」ではなからうか。

家族に話を聞くと、夫が入院を繰り返すようになってからだんだん元気がなくなった。一日中ボーとして過ごす日が多くなった。認知症も心配だと言った。が、Sさんの記憶力の低下は年齢相応だ。もともと自分が病気がちで、夫の役に立っていないことで自分を責めていたようだ。さらに、今後の生活の不安を口に出す。

さて、65歳以上のひとにみられる「老人性うつ」は珍しいものではない。が、早く見つけて、適切な治療をすれば治る。特徴は、若いひとのうつ病と違って、体の不調を訴えることが多いことだ。そのせいか、年のせいや認知症のせいにして、周りが簡単に諦めていたりする。で、自殺というケースもあるのだ。うつ病とは、ほっておくと、ホントはコワイ病気なのである。

（石黒修三 しいしんろクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）

イラスト・野畑桃花

